

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋
編集責任者 広報部長 竹本瑞鼓



「華」第67号 発行:平成29年5月31日

2面 平成29年度事業計画・事業方針
3面 華洲会会則全面改訂
4面 平成29年度春期昇段試験
5面 新指導者研修を受講して
6面 新支部「ソレイユ支部」設立承認
7面 会主 三浦華洲先生の漢詩を学ぶ
8面 会員数3年ぶりにプラスに転じた

主な記事

心ひとつにして前進 “28年度は一般会員14名増” 会員減少に歯止めをかけ、再び一般会員数400名を目指そう

平成29年4月30日(日)、大東市立市民会館にて、平成29年度華洲会定期総会が開催された。

総会冒頭、挨拶に立った、山口華雋華洲会会長は、会員の会員増強に感謝し、次のように述べた。



平成28年度は皆さんの頑張りにより会員数が増え全体で406名となりました。内訳は一般会員が375名と子どもさんが31名です。一般会員は14名の増で対前年比3・8%のプラスとなった。

会員増員したのは会員数上位の会では華洲会だけです。去年までの4位が、哲賞会、翠川会を抜いて2位になりました。皆さんに頑張って頂いているのが伝わって参ります。各教室の皆さんは年々歳を取られます。古い支部、古い教室はどうしても会員数が減って参ります。それらの教室を指導者を皆さんが継承してもらわなければなりません。

人を育てるといのが私たち幹部の役割です。そういう意味で華洲未来塾を立ち上げて頂いて本年度2年目ということになります。どうしても年を取るのには仕方ありません。古くなればやめてゆく人が出てきます。会員が減って行って仕方ありませんと放置するわけにはゆきません。みんなの力で先ず一人がひとりと呼んで来てもらおう。詩吟を楽しんで

もらう。と言うことをお願いしたい。未来塾もそうですが、楽しく吟詠をやってもらおう。詩吟ばかりではなくて俳句や和歌や状況によってはカラオケも含めて楽しんでいただきたいなと思つています。今までの錬成会から趣向を変えて新年の互礼会という形で皆さんに楽しんでいただく機会を作らせていただきます。いま会員を増やして頂ける情熱的な先生方がたくさんおられる。ましてや150人を超える師範代以上の指導資格をお持ちの先生が居られる。この方々に分会をどんどん作っていただきたい。指導すれば吟もうまくなるし仲間が増えて自分に還ってきます。



総会模様 開会挨拶をする種田紅鞠副会長

会の運

営は皆さんとぜひ話し合いをして皆さんの合議によって決められたことを皆で守つてやっつけていくという形をとつてゆきたい。

華洲会事業方針 総会決定
本年は、華洲会創立52年目となり私たちが

故会主三浦華洲先生の意思を継ぎ、次の時代へ継承してゆかなければなりません。

吟界を取り巻く環境は厳しく多くの会で会員が減少する中で、華洲会は平成28年度会員数が増加しました。これは一重に皆さんが大変頑張つて頂いたご努力の賜物と深く感謝申し上げます。しかし、華洲会においても先生の高齢化により教場が支部が消滅するなどの事象が発生しております。華洲会を継承するためには、後継者並びに新しい教場を開設してくれる新指導者の養成が引き続き大変重要な課題であります。

そこで本年度も、指導者養成の為の華洲未来塾を継続すること、青年部の活性化を図るとともに、教室が楽しいものにして頂くことを目的として、吟詠歌謡の研修会を継続実施してまいります。

これらの功を上げるためには、華洲会のみならず、皆さんがこころ一つにして、前進するため必要があることから、規約を改訂し、皆で決めてみんなを守るため合議制を確立してみんなで前進致したく考えます。

平成25年からの「華洲会会員数の推移」

	各年4月1日現在								一般/合計		大人前年比	
	宗帥	総師範	高師範	上師範	師範	準師範	師範代	一般	大人計	学生		合計
平成29年	1	12	10	9	30	34	46	233	375	31	406	57.4%
前年比	0	▲3	2	1	▲1	0	3	12	14	▲9	5	対前年 +3.9%
平成28年	1	15	8	8	31	34	43	221	361	40	401	55.1%
前年比	0	1	1	▲2	0	▲1	▲2	▲20	▲23	12	▲11	対前年 △6.0%
平成27年	1	14	7	10	31	35	45	241	384	28	412	58.5%
前年比	0	0	0	▲1	▲1	▲1	▲4	▲13	▲20	▲3	▲23	対前年 △5.0%
平成26年	1	14	7	11	32	38	49	254	404	31	435	58.4%
前年比	1	▲1	▲2	1	▲3	▲2	▲5	22	11	▲1	10	対前年 +2.8%
平成25年		15	9	10	35	38	54	232	393	32	425	54.8%
前年比		1	▲3	3	▲3	1	▲1	▲5	▲7		▲4	対前年 △1.8%

平成29年度事業計画・事業方針

事業計画 本部事業

イ 春季錬成会を中止し新年互礼会当日に新春錬成会を開催する

ロ 昇段試験を前期、後期、年2回行う

ハ 競吟大会の実施

ニ 研修会の実施

重点課題

1、会員増強

1) 一人が一人に声かけ運動

2) 一支部一新教場の開設

3) 退会者の防止(楽しい教室づくり)

4) 青年部員の活性化

2、指導者の養成(華洲未来塾)

華洲会には指導資格者が150名を超えていることから、この中から、新しい教場を立ち上げてくれる指導者を要請すること、高齢化する指導者の後継者の養成が急務です。

3、青年部員の活性化

十年後の華洲会を考えたとき、華洲会を担っていくのは、青年部であり、

若い会員若い指導者でなければ集まりません。4、会議は、全員で意見を出

し合い皆で決める。情報を共有化し、問題点を共有化し、全員で議論を重ね知恵を出し合い、華洲会の10年後を視野に、全員一丸となって前

進致しましょう。

各部事業計画

研修部

・本部研修会の復講
・吟力向上の為の研修会
華洲未来塾 教養部と共催

教養部

・華洲未来塾への参加(共催)
・会主三浦華州先生の自作漢詩を学ぶ

企画部

・組織の活性化
①優秀な人材の把握と活用
②縦割り組織から横断組織へ促進、各部との合同行事の促進

・新会員拡大に繋がるイベント&錬成会

〈平成29年度「新春錬成大会」&交流会〉

〈「琵琶湖クルーズと石山寺散策と吟詠歌謡研修会」

9月7日(木)に計画

広報部

・関吟本部情報など掲載記事の幅をひろげ、吟詠に役立つ記事、社会生活に役立つ記事を掲載する。

女性部

・企画部と事業を共催

青年部

・友好青年部大会への参加
・総本部青年部大会への参加
研修部・教養部共催事業

【華洲未来塾】上欄に別掲

主な行事日程

5月27日 総本部東明未来塾
7月2日 総本部師範昇格試験
7月16日 準師範昇格試験
7月22日 総本部東明未来塾
7月23日 師範代昇格試験
8月20日 関吟大阪地区連1部予選
9月7日 吟詠歌謡in琵琶湖

9月23日 華洲会 後期昇段試験
9月30日 総本部東明未来塾
10月9日 華洲会 競吟大会
11月25日 総本部東明未来塾
平成30年1月8日

華洲会 新春錬成会
1月27日 総本部東明未来塾
2月3日~4日 総本部 吟道大学
3月24日 総本部東明未来塾



華洲会会則及び細則を全面改訂 会議構成を整理 議決権を明示 会員区分の明示と役員定年を77歳に

華洲会総会にて華洲会会則改訂案を討議決定した。
改定の趣旨

本規約は昭和63年6月1日施行後4度の一部改正を経て現在に至っている。その間、関吟総本部の規約組織が公益社団法人になるなどがあり、今回、規約全般にわたり改定を行った。

§改定のポイント§

- 1、会員区分
 - ・ 会員を正会員、準会員、名誉会員、賛助会員に区分する。
 - ・ 正会員とは師範代以上の指導資格を言い、会員名簿の閲覧、総会議事録の閲覧などが出来る。
 - ・ 準会員とは指導資格を取得していないものを言い会則の閲覧ができる。
- 2、役員定年を75歳から77歳未満に延長する。
 - ・ 理事以上役員の選出は改選年の4月1日現在77歳未満の者より選出する。
 - ・ 理事以上役員は改選年の4月1日現在満77歳に達したとき、その年度の総会において

て退任する。
・ 会長、監事、相談役等は定年制を適用しない

3、会議構成を整理

- ・ 総会における議決権は理事、常任理事、正副会長が有する。
- ・ 常任理事会は総会に次ぐ議決機関であつて会長、副会長、常任理事、事務局長、会計部長をもって構成する。
- ・ 常任理事会提出の全ての議案は原則として事前に正副会長会議にて審議されていること

- ・ 正副会長会議は、会長、副会長、事務局長、会計部長をもって構成し本会の重要事項を協議する。
- ・ 諮問会議1と諮問会議2(拡大正副会長会議)を設け会長の諮問に応じ重要事項の諮問に応ずる。
- 4、関吟総本部代議員選出規定を整備
 - ・ 本会は総本部が定める代議員選出規則に則り代議員を選出する。
- 5、責任講師規定を設ける
 - ・ 複数支部を有し、責任講師

と分会の講師間に師弟関係があることとした。詳細に関しては、関吟総本部規定に記述が無いことから、本会規約には触れず、各支部の内規に委ねる

6、研修会、講演会の費用負担

・ 研修会や講演会で会費を得る場合、主催関係者の特別会費(参加料等)は免除する。

7、表彰規定を具体的に記述

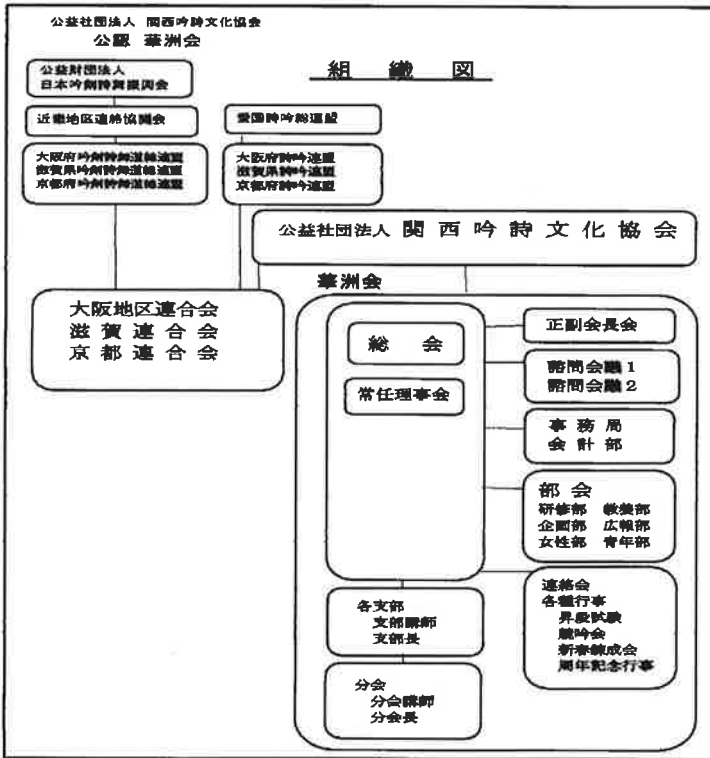
・ 全国大会出場者に対し交通費の一部1万円を支給する。
・ 関吟指導者の支部吟士権者、愛連一部二部吟士権者、財団

全国吟士権者、少壮吟士認定者に祝い金1万円を支給する。
8、慶弔規定・謝礼規定の見直し
・ 敬老祝いと表彰状・記念品贈呈・謝礼規定は廃止する。
・ 特別の物故者への弔意は会長が別途判断し報告する。

規約改訂委員会

種田紅鞠委員長のコメント

改訂委員5名によりまして何度も検討を重ね、ようやく皆様の尽力のお陰で、改定案が出来上がりました。総会で承認されホツとしております。



5名の規約改訂委員会の先生方

会員の皆様には会則・細則にご理解を頂きご協力をお願いいたします。委員名 種田紅鞠 中谷将鳳 中村尚儒 坂本亮 遠藤尚豪

関西吟詩総本部代議員は概ね会員70人の中から1人の割合を以て選出され、正会員による代議員選挙で選出される。代議員は総会における議決権を有する。また、代議員の中から、理事が選出され、執行部を構成する。
華洲会選挙区選出の平成29年度代議員は小寺竜、奥山紅雫、中村尚儒、竹本瑞鼓、遠藤尚豪の各先生に決定し、3月24日総本部で開催の北地区理事候補選出枠3名の選出代議員会に出席し華洲会選出代議員として役割をはたす。

29年度春期昇段試験(4月30日)

受験者7名 遠隔地テープ審査2名
緊張の中にしつかり練習成果を披露

山口華僑会長挨拶

季節の移ろいは早いものです。先日までは桜が満開でしたが、今は目に青葉、新緑がまぶしいくらいです。これからエネルギーを感じて私は好きですね。

さて、皆さんは詩吟活動に頑張つて頂いて、今日も昇段試験を受験いただきました。大体吟詠は、自分の実力よりも昇段が先に行く。段位をもらつてから自分の実力が付いてくる。3段受験の方は律詩をやつていただくことになつているが、3段といえどもうすぐそこが先生です。私も3段の時に20何名かの会員を擁する支部を持っています。自分で弟子を持つことにより勉強することになります。一番教えてくれるのは生徒さんです。そういう意味で3段を受けられる方はぜひ次の師範代を目指して、目の前に来ていますから目標としてやつていただきたいなと思います。

華洲会は総本部で会員数2番目になりました。大きな会で、会員増員がなつたのは華

五線譜入りで作成中です。華洲会事業方針では吟詠歌謡も楽しみの一環として取り入れて行きたい。今年の計画の中に入れていく。それと、何と言いましても会員増員です。

坂本亮綜さんが新しい支部を独立させます。20名以上の会員を獲得して頂いている。支部独立でその後に続く会員もいます。教室が燃えてきて楽しくないと続きません。

今日昇段を受けて頂く方は今後2段、3段と続けて受験いただきます。早く指導者になつていただきたい。

今年目標は一人がひとり会員の獲得です。詩吟を広めていただきたい。楽しんでいただきたいと思います。

受験概況
当日は、受験者が少ない事もあり、10時受付、10時30分から互礼に始まり巻頭言唱和、華洲会歌合吟、奥山紅篤研修部長の受験心得説明に引き続き段位別に7名が受験した。

受験吟題は各段の指定吟題を抽選により決定した。遠隔地受験者はテープ審査。その後講評に移る。

【昇段試験課題詩は別掲】
審査基準点
最高点 95点以下

平均点 85点
最低点 75点以上
不合格 70点未満

奥山紅篤研修部長挨拶 要旨
受験に当たっては、バッチを付けて頂くこと。吟詠されるときは、教本を使用、その際に教本で顔を隠さないように、審査の先生方から顔が見えるようにお願いします。また教本折らないように。普段通りの気持ちで吟じてください。

審査の先生にお願いします。平均点85位で、吟法に付きましても6山7山など、あまり厳しく減点対象にしないように、寛容な審査をお願いします。

講評 岡島彩鼓教養部長
受験者の皆さんは、しっかりと勉強されてきましたと、はつきり審査員にも伝わってきました。

初段の部では「芳野懐古」の「眉雪の」⑩番の節が⑩番がかつていたのではないかと。6の音程が短かった、5に下げる部分で揺りを入れるか5の音程をしつかり踏むことが良いと思います。南朝の⑤番の節、最後の降りてくる、3の音が少しうわついています。

「結婚を賀す」の「同心」のアクセントがまずかつたの

では。採点は穏やかにとりう事ではあります。今後の勉強の課題にしていただければと思います。

2段の「太田道灌」では「心緒」をチェックしましたが出ていたと思います。「乱れて」では3半から3に戻るのですが戻っていないかつたのではないかと思います。

皆さんしっかりと勉強されてきました。

講評 奥山紅篤研修部長
3段の講評ですが3名の方々大変よく勉強されているなど感じさせていただきました。大変良かったのですが、少し気になった箇所がありました。

「霜」の「染め得たり山山」の7-2ですが④番と間違えられるような節でした。

「水戸八景」の「遙かに望む」の④番、難しかったですね。昇段試験ですので間違つた時はそこでやり直して頂ければ結構です。

「子を戒む」の「師友に」⑩番が5の音を引き伸ばしすぎていました。⑩番と区別してください。

「但看る古今」節が全部違つたと思いますが今後再び勉強していただければと思います。

新指導者養成研修を受講して

「緊張のモデル吟詠」

丸の内中央支部 中根達博

歴史講座



はとても味
わい深かつ
た。漢詩の
作者の人物

像に触れられて詩を詠む上で
大変有意義だと思いました。
「南北朝時代」は、正成と尊
氏両雄の武士の律義さや男の
生き方に改めて感じ入りまし
た。

さて、実践指導コーナーは
大変楽しくわかりやすい指
導がとて参考になりました。
えらい先生ばかりの前で詠
うのは「いい歳してみつとも
ない」とおじけづいたので
すがエイヤツとばかりご指導
を受ける決意をしました。予
想通りアガりました。多分、
横隔膜もアガっていたのだろ
うと思います。
先生の巧みなお話で落ちつ
いては来ましたが、やはり発
声はずっと上ずっていました。
しかし、「発声の為の体を作る
」との指導が今も頭に残って
います。それは、詠う時、お
腹には常に力を持ち続け柔に
剛に発声をこなすことと理解
して、日々練習に励んでいます。

更なる講座の開設を期待し、
出場機会があればもう一度：
と。

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

「声の響きを実感」
川西大和支部 福田和美



昨年度実
施された、
華洲会「新
指導者養成
研修会」を

4回受講しました。
第3回目の吟詠実技指導の時、
奥山紅雫研修部長の指導
を受ける機会をいただきました。
当時詩吟を始めて2年半
余りの私にとつて、大勢の指
導者の先生方、諸先輩方の前
でのモデルでいつも以上に緊
張し体に余分な力が入りまし
た。前に声を出すという意味
もわからず、ただ大声を出し
ていた私ですが、解からない
なりにとも言われた通りに実
施する様に努力してみると、自
分でも今までと違う声の響き
や息づかいを感じる事が出
来た瞬間がありました。ただ、
私は何事も早とちりの慌て者
で解ったつもりになるのが欠
点です。

一度解かったから即身につ
くものでもなく、繰り返し稽
古し、まずは基本の腹式呼吸
でどんな時でもきちんと吟じ
られる様に。競吟大会等の失
敗も糧として、一歩ずつ前進
して行きたいと思いを新たに
しました。

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

「始めに子供二人入会」
筒詠京都 高谷兼妙



東明未
来塾に参
加させて
頂き感謝
していま

す。六回コースで春夏秋冬元
気で参加できるの心配でし
た。初めは緊張で疲れました
が回を重ねる毎に楽しみに変
わっていききました。カリキュ
ラムは漢詩漢文講座、吟詠実
技講習、歴史講座で、どの講
座も得をした気持ちになりま
した。

実技講習では母音の正確な
発声が最も大切なこと。一本
調子からの脱出、詩心は吟詠
の味のポイント、詩の解釈を
良くすることなど、マイクの
使い方などよく耳にする言葉
ですが講師先生の詩吟道に対
する熱意と普及振興に努力さ
れるお姿に感動しました。
私も師に対する心構えを以
て責任を持ち、師にふさわし
いものに近づけたらいいなと

思いました。
始めに子供二人入会しても
良かったです。頑張ります。

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽
「知る楽しさを学んだ」
筒詠寺川 國部奎雋



「東明未
来塾」の
話を山口
華雋先生
に聞いた

とき、「へーすごソウ。」と興
味を持ち、受講できるのかど
うか聞くと、「希望者が多いか
らナ。」と言われ諦めていまし
た。が、幸いにも受講できる
ことになりました。ラッキー。

初日、会場には、私にとつ
て殿上人の様な方々がズラー
リ。思わず瞬間フリーズ。私
の思いは誰も知らず(当たり
前でしょうね!)講義が始ま
りました。
関吟の創立、変遷を学び、
「温故新生」の精神を諸先輩
の先生方が引き継ぎ、伝えて
こられたから今があるのだと
思いました。それでは今、私
は何をすべきなのか?と考
えてみたが、?ばかりが頭
の中を走るばかり。結論。「ゆ
くり考えよう。」
歴史、漢詩、作者について
は、それぞれの先生方の深い

知識、広い見識には恐れ入
りました。講義は知る楽しさ、
自分の見つけ方、作者への迫
り方等を学ぶことが出来まし
た。そして知らない事のなん
と多いこと、改めて再認識。
でも知ることより知らない
という事を大事にしようと思
います。知り得た事は、少し
でも多く次の人に渡せるよう
に。しなくてはと健気に思う私
でした。教場の作り方、あり
方は、「その先生」だから出来
るのだ。と思うところと理想
の教場とがあるように思いま
す。教場を持つことの責任、苦
しみ、楽しみがあり、空回り
しないようにしなくてはと重
圧を感じました。

そして吟の実践講義は、先
生方の確立された個性あふ
れる吟、吟詩に対する情熱、
教え方のノウハウ等々。楽し
く面白く聞いているだけで上
手になったような錯覚に落ち
る程、わかりやすく教えて
いただきました。教えて頂いた
ことが身につくには、毎日の
実践、努力するしかないのだ
と理解できるのだが、継続す
る自信が……。『ダカラ。ダメ
なのだ、お前は。』とどこか
ともなく声が。しつかりしろ
!自分自身!!と思う未来塾
でした。

5月6日総本部
ソレイユ支部設立承認可決
会員増強を成し京阪樟葉支部から分離独立



ご挨拶
ソレイユ支部講師
榎本 充

この度、五月六日の総本部正副会長会議に於いてソレイユ支部申請報告承認可決されました。

茲に、新生「ソレイユ支部」誕生の経緯ご報告と共に謹んでご挨拶を申し上げます。

できる素敵な環境であります。支部単位の諸行事に最適、誠に意に合うリーススペースで同伴先輩共々大変気に入った次第です。

爾来、毎年恒例の新春錬成会支部諸行事に活用大変な便宜を図って頂き、更には、京阪樟葉駅ビルの改装に伴う、京阪体育文化センターの閉鎖からその後の朝日カルチャー教室開講迄の間及び濱田先生ご退任する迄の日曜教室教場として長期間お世話になりました。

振り返れば八年前の一月初め、京阪樟葉支部新年錬成会と懇親会の幹事役を突然に仰せつかり会場探しに思案する中、吟友の紹介で現在の「ソレイユ」会場を訪ね会場主の中野寛瑤さまとの対面が会場の最初でした。

会場は、音響設備やプロジェクターが完備されカラオケも愉しめて、立派なソファで寛げる空間、窓前の公園には四季の織り成す景観を眺望

私は、中野さまとの出会いから今日に至るまで懇意に親交を深めることが出来本当に幸運でした。この浅学菲才未熟な私に従妹様のご紹介を得て第一号お弟子さん入会、平成二十六年四月ソレイユ分会開講の動機であります。

私自身は、その数年前より八幡市内全域の公民館を、役所の知人を介し巡回、公民館長等と交わり、伝統文化の詩吟普及チラシやポスター本部発行小冊子等の配布啓蒙活動

を進めて参りました。

住まい至近の公民館には広報活動掲示を行い、毎週土曜

小会議室利用、会員募集活動の傍ら、吟友と共同練習、一方退会者再入会説得に努めるなど一年半続行、その功無く閉鎖する事態となったのです。

この苦悶を続ける中、昨年九月末、恩師濱田華亮先生が吟界引退に至り、華洲会の名門「京阪樟葉支部」、講師は藤原亮先生に委ねられました。私としても、恩師濱田先生の十六年間のご薫陶に報いること。

又、六年前中村尚儒・尚瑛先生のご熱心且つご誠実な勸

奨によつて常任理事副事務局長の任を務める光栄は、偏にこの恩師とご夫妻のお蔭であります。事務局業務の一端をお手伝いする中で、会長・常任相談役・常任理事大先輩諸先生との交流も深まり様々なご指導やご鞭撻を承り、大変多くを学び貴重な体験をさせて戴きました。この事に深甚なる感謝を申し上げる次第です。此のご恩は生涯私の宝として心から離れるものではなく、支部独立に至る機運成熟

は、この様々な活動から少しずつ芽生え心に小さな灯となり育まれたと思えるのです。

伝統芸能、日本古来の武道や芸道の師弟関係に、守・破・離の言葉があります。

私は、十六年間は恩師濱田先生の教訓守、伝統を重んじ

過去に捉われない改革脱皮【破】、夢を創造模索華洲会に新息吹の支部誕生で発展に微力を注ぎ【離れる】こと。

これが京阪樟葉支部から独立、お互いが恩師の【守】を担い、切磋琢磨、共栄共存、友好支部として発展に寄与邁進するとの決心であります。

私は、中野さまとのご縁ご厚情に感謝の数々であります。立派な会場を詩吟の為に開放する有形無形のご奉仕、その心意気や熱意に微力を捧げお応えしなければなりません。今回の支部創立に至る様々な事柄について幾度も相談しました。

会員募集に際しても、このお人柄が人々を招き寄せる魅了をお持ちです。論語「北辰衆星」の喩え通り

徳を以ってせば、譬えば北辰の、其の所に居て、衆星

これに共うが如し。

「人・会場・立地、その徳ある人を慕って集まってくる」全ての条件に合うのです。

今回こうした大勢の方々の温かいご支援ご尽力に拠るもので、この喜び感激感動は何事にも代え難いものです。

教室の目標は、高期高齢化の社会現象の中、健康の維持増進に主眼を置き、健康長寿を目指し、底辺の拡大に尽力、教場お一人お一人に寄り添い、寄り思い遣り「老人に安心、吟友に信頼、若者に慕われる」理想を掲げ「和合誠実」をモットーに「明るく、楽しく、健康づくり、友達づくり」

“学びの後は、歓談カラオケを楽しむ”を標榜。毎週火曜十二時〜十七時 毎週木曜 十時〜十七時 教場の運営に努めて参ります。今後の支部運営に幾多の困難や課題に取組み挑戦がはじまります。

甚だ幼稚心許無い新生支部ですが「誠心誠意」一所懸命に華洲会発展に尽力する所存、会長山口華雋先生を始め先輩諸先生会員皆々様方の温かく篤いご支援ご協力をお願い、支部設立のご報告ご挨拶とします。

会主 三浦華洲先生の自作漢詩を学ぶ

初夏客中作 三浦華洲
新樹清々染旅装 ○
薰風吹袂自銜香 ○

收筇客舍吟書楽

浴後陶然傾一觴 ○

「字解」

客中 旅の途中

新樹 新しく芽吹いた樹木

薰風 穏やかな初夏の風

筇 竹で作ったつえ

吟書 詩歌などの書物

陶然 心地良く酔うさま

一觴 小さな酒盃

「意解」

新たに芽吹いた緑の樹木が、旅人の衣を染めるかのように青々としている。穏やかな初夏の風が心地よい香りを運んでくれる。

宿に着いて暫く吟書を紐解き、浴後酒盃を傾けるうちに、心地よく酔ってしまった。

「備考」

この詩の構造は仄起こり下平声七陽韻の、装、香、觴の字が使われている。

○教養部の本年の目標のひとつに「会主三浦華洲先生の自作漢詩を学ぶ」を掲げております。

三浦華洲遺稿集より、詩の

意味、語句、形を勉強し、在りし日の会主を偲ぼうと思えます。山口会長のご意見も頂きこの度「華」の紙上に掲載することになりました。各号に1〜2題の漢詩を掲載しますので会員の皆様のご意見をお聞かせください。岡島彰鼓

初夏客中の作 三浦華洲

新樹 青々 旅装を染め

薰風 吹いて 自ずから香を銜む

客舎に 筇を収め 吟書 楽しみ

浴後 陶然として 一觴を 傾く

平成29年度 昇段課題詩 華洲会

	教本番号	吟題	作者
初段	1 A06-1	送元二	王维
	2 A11-2	川中島	頼山陽
	3 A14-2	芳野懐古	藤井竹外
	4 A16-1	山行	杜牧
	5 A30-2	賀結婚	松口月城
二段	1 A13-3	太田道灌	愛敬四山
	2 A17-2	弔小楠公墓	杉孫七郎
	3 A23-3	清平調子(其の三)	李白
	4 A2-77	思坂本龍馬	河野天籟
	5 A2-78	辞世	吉田松陰
三段	1 B16-1	登高	杜甫
	2 B17-3	水戸八景	徳川齊昭
	3 B18-2	戒子	丘濬
	4 B19-3	霜	大窪私佛
	5 B28-2	書憤	陸游
四段	1 B20-1	起座	頼三樹三郎
	2 B25-2	梅林聴鶯声	宮崎東明
	3 B27-2	草	白居易
	4 B17-2	酌酒與裴迪	王维
	5 B18-1	遣興	文天祥

§ 吟道大学レポート §
平成28年度関西吟総本部主催 吟道大学は29年2月4日〜5日にかけて吹田市パナソニックリゾートで開催。参加124人。華洲会13名の参加。
本年度新たに室屋鷲幽副会長による「論語と漢詩」講座が持たれた。次号に詳細

研修内容は「新体詩」から始まり「俳句」「和歌」研究に加え、発声や吟詠研究と幅広いものだった。講演も「李白と杜甫 詩と友情」「論語と漢詩」など大変興味深く勉強することができました。詩吟のレポートも大変幅広いことを改めて学びました。また、遠くアメリカからの参加者もあり、格調の高い研修会でした。
二日間の研修で少し疲れましたが、講師・指導者の先生方の熱意あふれる講義や研修指導部の先生方の模範吟に触れ、大変有意義な研修会でした。

再入会キャンペーンの成果現れる
会員数3年ぶりにプラスに【一面参照】

支部名	宗帥	総師範	高師範	上師範	師範	準師範	師範代	一般	学生	幼少年	合計
京阪楠葉			1	1	6	1	2	21			32
燐吟		1			1	7	1	10			20
指月		1					1	1			3
雫詠寺川	1	1			4	3	1	24		3	37
雫詠京都				1		2	2	10			15
雫詠伊賀		1		2	3	2	7	7			22
野崎観音			1		3	8		9		1	22
学園		2			1		3	4			10
楠の里		1			1		1	6			9
四条楠公					2	1	1	5			9
四条巖		1			2	1	2	5			11
勢多		2	1			1	1	9	1	3	18
鳳吟大江			1	1	1	2	3	12	1	2	23
清和台					1		3	7		5	16
多田東			1	1	1	2	7	35		2	49
丸の内中央			1		2	2	2	10		3	20
川西北			3	2	1		4	17	2	3	32
川西豊友		1	1				4	14	1	2	23
川西大和		1		1	1	2	1	27	2		35
合計	1	12	10	9	30	34	46	233	7	24	406

28年度の華洲会では、「一人がひとり」に声を掛けよう」各支部1教室以上の教室を増やす」の方針のもと、会挙げて増員活動を展開した。その結果、会員会費の支払いを要する正会員と準会員との合計べ

支部別では、川西大和が10名の増と突出し、京阪楠葉支部6名、清和台支部5名、川西豊友3名、多田東2名の増であった。子供を含む全体の入退会では、新規入会42名、再入会16名、入会合計58名、退会総数53(内子供9)名、差引5(子供を除くと14)名の増。再入会では清和台支部が5名を獲得し結果を残した。再入会の成果があつてこそこの頑張りで長期凋落傾向に歯止めがかかることを期待したい。

増員を果たし、9支部が減員で結果14名の増であった。

新入会員 入会順

- (11月) 3月 *再入会)
- 金川慶子(川西大和) 東野昭
- (川西豊友) 星博*(々) 西村幸子(々) 武藤操子(々)
- 塩田恵子*(京阪楠葉) 上林美敬(四条楠公) 草留和美(多田東) 中西光男(京阪楠葉)
- 三井健司(京阪楠葉) 加藤光男(雫詠京都) 小林治雄(々)
- 東山美恵*(京阪楠葉) 高田盟子(川西大和) 筒井清次郎(々) 西塚梨花(幼) (勢多)
- 宇野紬衣菜(々) 小関正一郎*
- (川西北) 田中計久(多田東) 野瀬幸*(々) 鈴木廣子(川西大和) 戸塚ひとみ(雫

詠寺川) 岡真知子(々) 岡到(々) 大西幸子*(々) 元岡陽子*(京阪楠葉) 目野幸代*(勢多) 松下恵子(多田東) 皆川加代子(々) 久村晋(京阪楠葉) 竜田敬三(燐吟) 春江穂子*(々) 吉田為重(雫詠京都)

俳句

多田東支部紫陽花分会

石黒 叡妙
◎薰風や 瀬田の唐橋
吟の旅

◎ほろ苦き 思いとともに
つくし摘む

◎紫陽花や 雨に呼ばれて
来た人も

◎名言・名句◎
愛して其の悪を知り、憎みて其の善を知る。(礼記)

も、其の欠点を見抜き、その人をどんなに憎んでも、その長所も認める。

*賢人の対人関係について述べたもの。愛したり憎んだりしても盲目的にならず、いつも冷静に人と接したいものである。

礼記(らしいき) 儒教の經典である五経の一つ。

【編集後記】

山口華雋体制二年目の総会では、規約改訂と事業計画を議決し新たにスタートを切った。昨年度は、新企画の「華洲未来塾」や、また新春早々の「新春錬成吟詠大会」を実施し、また会員増に転じ実り多い一年であったと思う。

巻頭言にあるその意を悟りその義を楽しみ詩中の人となり同化するには、多方面の知識があつてこそと思える今日この頃である。

詩吟に必要なものは、漢詩の意解は勿論、歴史の勉強も然り、音楽の基礎知識もそうである。教える立場になればなおのこと大変である。自身の体験から、競吟に臨む心構え、ルーチンワークの伝授など。多岐にわたる。

しかしながら、悩んでは後に続かない。如何に楽しむかが大切である。

広報紙づくりも基礎が大切で、技術的なものから紙面構成に心を配り、毎号ごとに部員が頭を悩ましていますが、何とか楽しいものから紙面づくりが出来ないものか、結果報告の広報でなく未来の記事で紙面を埋めたいと思うこの頃である。

瑞鼓